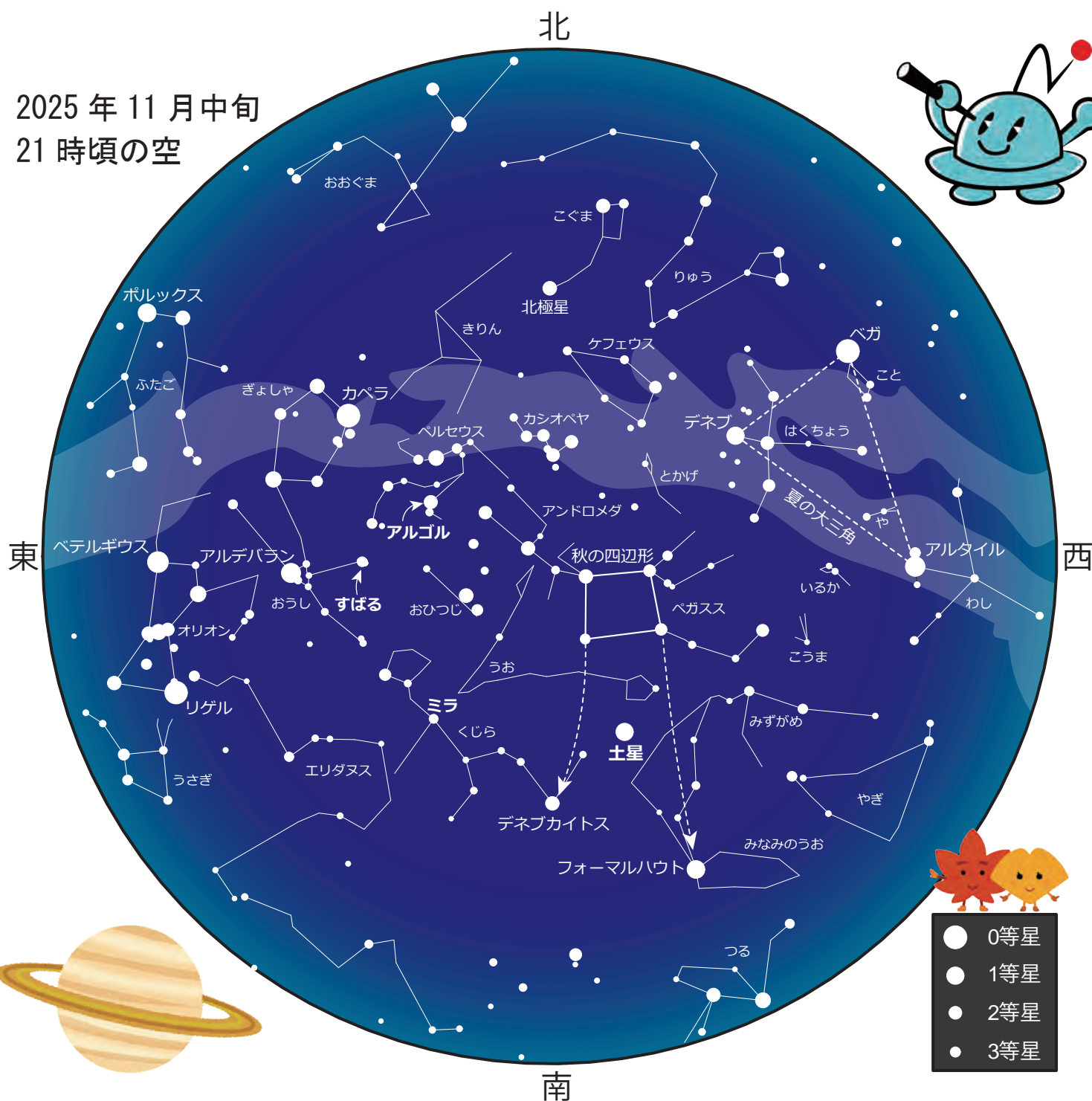


11月の星空案内

2025年11月中旬
21時頃の空



秋も深まる11月。夜空を見上げれば、**秋の四辺形**を天高い位置で見つけることができます。秋の四辺形の西側の一边を南の低いほうへ延ばすと、**フォーマルハウト（みなみのうお座）**という1等星が見つかります。一方で秋の四辺形の東側の一边を南側に延ばせば、**デネブカイトス（くじら座）**という2等星が見つかります。この二つの星を見つける際、近くに明るい星がひとつあり、これが環を持つことで有名な惑星、**土星**です。望遠鏡でこの土星を見てみると今年はかなり環が細く見えることでしょう。なお東よりの空からは冬の星座が顔を出しはじめています。**おうし座**には明るい一等星の**アルデバラン**があり、ほかにも青く輝く星団**すばる（M45）**のぼつ

天体観望会のご予約はネットかお電話にて 【毎週土曜日開催】

阿南市科学センター

電話 0884-42-1600

<http://ananscience.jp/science/>

■ 11 月の月の満ち欠けと惑星について



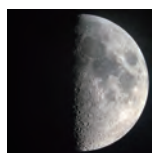
満月
5 日



下弦
12 日



新月
20 日



上弦
28 日

11 月の天体観望会で月が見える日時は？



11/1 (土) 全ての回で観察可能



11/29 (土) 全ての回で観察可能

水星：月末、夜明け前に東のごく低空で見える。【約 0.4 等】

金星：初旬の夜明け前、南西のごく低空で見える（明けの明星）。【約 -3.9 等】

火星：観察は難しい。

木星：前半夜に東の空から昇ってくる。【約 -2.4 等】

土星：宵の口から南の空で見え、深夜に沈む。【約 1.0 等】

※各惑星の等級は中旬頃の明るさ（水星は月末、金星は初旬の明るさ）

5日はスーパームーンだよ！



最大の月と最小の月の比較



■ 話題の天文現象

【25日、土星の環が消失する】

25日、土星の環がなくなる…ことはありませんが、地球からみるとたいへん環が薄く見えます。土星は直径が約12万 km で地球の直径の9倍近くあり、太陽系にある惑星の中では木星に次いで2番目の大きさを誇ります。土星といえば美しいリングを持つことがよく知られていますが、このリング、実は厚さが数百mもありません。見た目に反して薄っぺらいのです。

土星は同じ傾きを維持したまま、太陽の周りを約30年かけて公転しています。図1の①および⑤の位置にくると、土星を真横から見ることになるため、地球からは土星の環が消えたように見える（薄くなる）という仕組みになっています。また、前述のように土星が一周公転する間に2回横から環を見ることになるので約15年間隔で起きる現象となっています。当館では11月22日に環の細くなった土星を四国最大

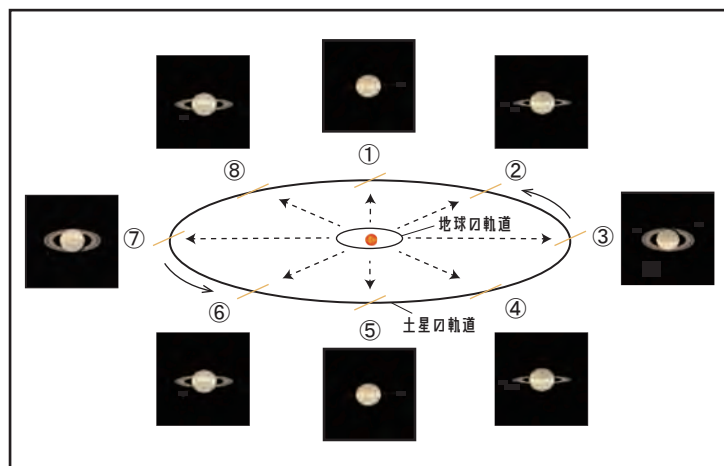


図1 地球からみた土星の位置とその形

■ イチオシ天体写真

【カシオペヤ座のハート星雲】

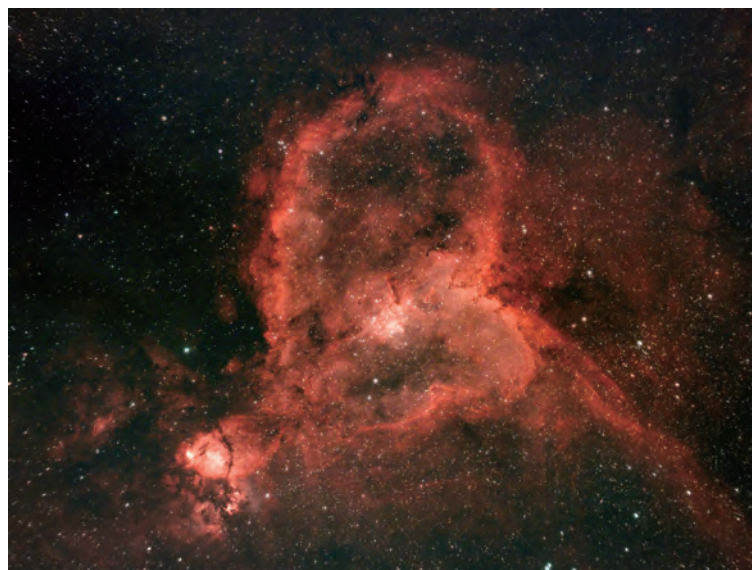


図2 ハート星雲 (IC 1805)

D=61mm (F5.9) + x0.8 reducer + L-eXtreme + ASI294MC-pro

秋の夜、北の空には小学4年生の理科で学ぶ「カシオペヤ座」が昇っています。五つの星がWやMの形に並ぶ見つけやすい星座で、ギリシャ神話の女王カシオペヤや娘アンドロメダ、勇者ペルセウスの物語と結びついています。その中にある「ハート星雲 (IC 1805)」は、心臓の形から名付けられた赤く大きな星雲で、19世紀に天文学者バーナードが写真でとらえました。地球から約7000光年の距離にあり、星の誕生が今も続く「星のゆりかご」として注目されています。星雲の大きさは約200光年にも及び、中心部にある星団メロッテ15では太陽の数十倍の重たい星たちが輝いています。目では見えにくい淡い星雲ですが、カシオペヤ座の奥には宇宙の息吹が広がっています。